

「正す会」が平和活動家の国連利用に先制「口撃」 またしても真実を伝えなかつた 県2紙の偏向に募る県民の「義憤」

ことし6月、スイス・ジュネーブで開かれた国際連合の人権理事会会で沖縄から2人が発言した。1人は沖縄平和運動センター議長の山城博治氏、もう1人は「琉球新報、沖縄タイムスを正す県民・国民の会」代表の我那覇真子氏だ。ところが、沖縄県2紙は、山城氏の言動のみを取り上げ、我那覇氏については一切触れなかつた。県内では、両紙の報道姿勢に対する義憤にも似た憤りが高まっている。

「正す会」が先制「口撃」 真実を語る動画も持参

「今回、地元2紙がどのようなように伝えるか興味があつた。だが、またしても真実を伝えなかつたこと、両紙への信頼はさらに揺らいだ」。琉球新報と沖縄タイムスの報道姿勢について、ある地元経済人はこう語つた。この見解は決して、当人だけではない。真実が知られるにつれ、沖縄県内でそうした意見が広がっている。

沖縄県2紙が伝えなかつた真実とは何か。スイス・ジュネーブで6月中旬に開かれた国際連合の人権理事会で、沖縄からは2人が発言する機会を得た。しかし、両紙は、そのうちの1人しか取り上げなかつたことである。取り上げられたのは、沖縄平和運動センター議長の山城博治氏、取り上げられなかつたのは「琉球新報、沖縄タイムスを正す県民・国民の会」代表の我那覇真子氏だ。

2紙の報道内容を要約すると以下のようになる。国連人権理事

会で山城氏は、時折、沖縄の方言を交えながら90秒間にわたり自身がこれまで経験した「惨状」を英語で訴えた。併せて「日本政府が人権侵害をやめるよう求めるとも主張した。その後の関連イベントでも、各国のメディアやNGOを前に日本政府の処遇の不当性を訴え、出席者から多くの賛同を得た。帰国後の会見で、山城氏は「国際社会とつながりが生まれ、大きな成果を得た。『沖縄の状況を見ている』と言つてもらい、孤独ではないと実感した」と語つた」というものである。(全文は囲み参照)

この文調からは、山城氏らが主張する日本政府による平和運動への圧力に対して、参加者の多くが「不当な弾圧」と判断し、山城氏の平和運動に理解を示したとしか読み取れない。しかし、実際は大

きく違つたようである。演説に対しては「人権問題に苦しみほかの人のためのスピーチではなく、自分の個人的な見解を述べたに過ぎない」という意見が大半だつたそう。山城氏のスピーチは持ち時間を超えてしまい、途中で止められてしまふほど熱のこもつたものだったようだ。その後のイベントでも続いた「山城劇場」に終止符を打つたのは、一つの動画だつた。その動画は、山城氏らが防衛省沖縄防衛局の職員らに暴力を振るつてくる内容のものだ。山城氏が米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設の抗議行動で、傷害などの罪



国連人権理事会の演説後の記者会見の様子。右が我那覇真子氏 (You Tubeより)



米軍普天間基地の一刻も早い危険性の除去は県民の総意だ

に問われて起訴されるきつかけにもなったものである。外国人記者から動画にあった映像の説明を求められた際、山城氏は「私は日本一のテロリストのように喧伝されている」とはぐらかしたという。

実は、この動画は、前日の人権理事会のNGO枠で、我那覇氏がスピーチした際に用意したものであった。我那覇氏は、15年9月に翁長雄志県知事が国連人権理事会で「沖縄の人々は人権をないがしろにされている。辺野古での米軍の新基地建設に反対する」などと訴えた際、「沖縄に人権侵害はない。知事のプロパガンダを信じないでほしい」と発言した人物で

ある。このスピーチによって国連人権理事会は、日本政府に沖縄問題についての勧告を出さなかった。翁長知事とその支援者らが描いた、反辺野古活動に国連を利用するという目論見は脆くも崩れたのだった。

タイムスは「同行取材」 偏向報道に疑問の声

今回、枠の順番の都合で山城氏の前に演説することになった我那覇氏ら一行は、「自身の政治闘争のために国連を利用し、誤った情報を発信しようとしている」として、事前に山城氏らの発言が虚

偽であること訴えた。「被害者のふりをしている人たちが、本当は加害者です」と、その該当者が翌日に演説する山城氏であることをうかがわせる内容も盛り込んだ。

その上で「山城氏の目的は、弾圧の解消のためではなく、訴えに世界が共鳴した、世界が日本を批判しているという既成事実をつくることにある」と付け加えた。山城氏の発言が外国人記者らから額面通りに受け取られなかったことは、我那覇氏らの先制攻撃が功を奏したからであるのは間違いない。他方、外国人記者らからの質問に対して山城氏が窮したことを、沖縄県2紙は全く伝えなかった。

しかも、沖縄タイムスは山城氏に同行し、同氏のスピーチ後に行われたイベントで「政府から言葉による攻撃を受けている」などと発言していた。一方、我那覇氏が国連人権理事会で演説したことについて、両紙は全く触れていない。

ある地元経済人は「国連人権理事会での一連の内容の真実が明らかになるにつれて、自分たちが訴えたいことだけ主張する新聞に公平な報道姿勢を求めることが無理なこと」が「一層明白になった」と厳しく指摘している。真実が明るみになるにつれて、そうした冷静な意見は今後ますます増えそうだ。

(竹井 文夫)

●国連人権理事会における我那覇真子氏の発言

私は日本の沖縄県から来た我那覇真子です。私は沖縄の現状を報告すると共に、暴力的な反基地活動家、山城博治が15日に国連の場を悪用しようと試みていることを皆さまに報告したいと思います。

沖縄では、地元住民の人権と表現の自由が外からやって来た基地反対活動家や共産革命主義者、さらには偏向したメディアによって脅かされています。

彼らは、自分たちの人権と表現の自由を盾に、考えが反対の人たちの人権と表現の自由を抑圧しているのです。

その1人である山城は威力業務妨害、公務執行妨害、不法侵入、傷害などの複数の犯罪で逮捕され、現在保釈中です。彼こそが人権と表現の自由を脅かしている張本人です。その彼が人権理事会に現れるのは、皮肉なことです。彼は、日本政府が人権と表現の自由を脅かしているとスピーチするでしょう。しかし、それは真実ではありません。それどころか刑事被告人である彼が日本政府に渡航を許可され、国際組織で話することが許されているという事自体が、日本では人権と表現の自由が尊重されていることを証明しています。

私は国連の正義と公平性に信頼し、皆様が沖縄の真実を理解し、必要であれば山城や活動家たち、偏向したメディアを非難するなど、正しい対処がなされることを信じています。被害者を代弁し、感謝申し上げます。

●国連人権理事会における山城博治氏の発言

ありがとうございます。議長。はいさいちゅーがなびら(沖縄の言葉で「皆さん、こんにちは」)。

私は沖縄における米軍基地による人権侵害に対し、平和的な抗議運動を行っている山城博治です。日米両政府は沖縄の人々の強い反対にもかかわらず、新たな軍事基地を沖縄に建設しようとしています。市民は沖縄の軍事化に反対して毎日抗議活動を行っています。

日本政府はその市民を弾圧し、暴力的に排除するために大規模な警察力を沖縄に派遣しました。私は抗議活動の最中、微罪で逮捕され、その後、2回さかのぼって逮捕されました。勾留は5カ月間にもおよびました。面談は弁護士以外との接見を一切禁じられ、家族とも会うことを許されませんでした。

私は自供と抗議運動からの離脱を迫られました。これらは当局による明らかな人権侵害です。しかし、私も沖縄県民もこのような弾圧に屈しません。私は日本政府が人権侵害をやめ、沖縄の人々の民意を尊重することを求めます。